
今の気持ち

kibou

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今の気持ち

【コード】

N0996E

【作者名】

kibou

【あらすじ】

今の気持ち、挫折感、喜び、過去、現在を乗り越えて果たしてわたしはどうなっていくの・・・？仕事？恋愛？子供・・・？

挫折

今の気持ち。すごい挫折感。仕事もないし、お金もない。子供2人これからどうすればいいのか……。5年ほど付き合っていた彼氏とも……。破談。悲しい終わり方でした。どうするかなあ！がんばっていたのだろうか？それとも……。あますぎたのか……。答えなんてない。今大事なのは、これからどうするかだ！

子供たちの父親なんてあてにならない。男なんて所詮やくにはたたない。でもいざ世間

に、ほうりだされたら……。世間は男の社会だと思う。かといって成功している女性も、たくさんいる。どうしたらそんな女性になれるの？努力はうらぎらない？それとも私が努力がたりないのか？成り功してないから努力がたりないのだ。私にはスキルがたりない。いままでさぼっていたつけ。所詮ひとりでは生きていけないのだ。世の中そんなにあまくはない。が、この状況を打破しないといけないのです。考えるがからまわりだ。簡単にいえば経験のあるお水にもどればいいのだが……。いまの私にはそんな元気はない。元気がなければなにをやってもうまくいくわけがない。元彼との別れをひきずっているのか？確かにそれは大きい。でもたぶんそれは長くいたぶん生活にあいた空間が寂しく、思い出からぬけきれないのだ。たぶんそんなに愛情はない。ただ私がかみ付きたいだけ……。どんなに無理やり戻っても、多分同じことになる。そんなことは自分がよくわかってる。だからこそなおさらつらい。じゃ大好きだった仕事は？会社との公私混同で自分で破壊してしまった。でもすぐくやりがいがあった。そこに私の居場所はあった。でも会社の代表のやり方と暑すぎるまでの情熱にはかなわなかった。私はそれをうけいれなかった。でもそれは私のわがままなのか？ふとわからなくなる。だって家にかえってまでは、いいかえれば朝から寝るときまで仕事の話は勘弁だった。そうドゥプリ仕事にはまりたくなか

った。初めるときはそんなに苦ではなかった。そのため、元彼と別れるはめになった。後悔？仕事ができるうちはそれほどなかった。そう、私はうしなってからきずく単なるあほだ。わるあがきするたんなるガキ。自分からなんてそんな勇氣はない。だからなにをしてもだめなのだ。

やはり気持ちとは裏腹の行動をしてしまう。まず自分を傷つけた。リスカだ。そしてoD。

そして男の人が嫌がる行動。朝までまちぶせしたり、うざいまでの電話攻撃！そりあおとこのひともいやだよね。

男はいつだって仕事というものがまもってくれる。

私がつきあっていた男は常に仕事にこまることはない。不思議なぐらい。

だが、私はそれを邪魔してしまうの？私は普通なのに……。

しかし私は一人ではさみしくてたまらない。たとえ子供たちがいたとしても……。そう私がこどもだから……。一種の恋愛依存症なのかもしれない。

少しの希望

あれから1週間……。

なんとか、仕事に復帰できた。やはり生活のなかでお金は必要である。でも……。

まあ会社もそんなに利益をあげない。うちの会社は、各自、独立採算制で個人の歩合でその日払いの所だ。商品を持ち込めば持ち込むだけ個人の利益になるのだ。私はそんな会社の事務員。会社の内情といえば……。個人に商品をもつてきてもらいたかったら、同業のところより査定をよくする。ということは……。査定をあげるのだから……。会社の利益はおのずと減る。まして……。会社というところは設備投資をしなければならぬ。結果……。運営は思うようにいかない。ということ。……。お金のことは容赦なく相談される。まあ私に相談されてもどうしようもない。社長もよくわかってはいるとおもうが！兎にも角にも……。まして力仕事たまに運搬。内勤さん社長もよく働く。でも……。

社長と私はビジネススタイルが違う。性別も違う。あうわけがない！薄情に言えば私はお金さえ横領しないかぎり社会的な責任はくることがない……。しかし大なり小なり代表には責任は大きく彼にかかるとは。にしてもあわない。よく衝突する。でもあたしはこの職業が好きだ。

でも最近将来の事を

考えると不安にたた襲われる。誰しもがそうだが気を使うのはいやなものだ。そう時に心が折れそうになる。はたして……。

仕事復帰から3日目、事件はおきた。

その日は運搬が忙しく朝から緊迫した空気が会社にながれていた。どんどん入ってくる商品、どんどん積み込みしなければならぬ商品。お昼には内勤、そしてわたしもつかれきっていた。

そんなとき社長からとんでもない言葉がでた。それはわたしのプライドが崩壊する言葉だった。

「お前が戻る前は内勤とうまくいっていた・・・昼飯ただで食えてええのぉ」

カッキンーーーーー！プツリきれてしまった。

少しの希望（後書き）

きれてしまった。存在をひていされたみたいだ……。くやしかった。再起がんばっているのに……。！私はいらないのか……。

きはしかい私はきってかかってしまった。いいままで我慢していたことが爆発！！普通なら

社長にくってかかったらいけない立場、でも……。社長とは男と女の立場。反発してしまっ

た。いままでがまんしてたぶん……。ぶじまけた。

つぎの言葉をいった拍子、首にむかって社長の手がとんできた。そして椅子から倒れた。それ

から蹴りの連発！！やりかえす気持ちは私にはなかった。

化粧はくずれくやしくて涙が……。でもみんなにはそんなところ見せられない。悔しさを押

それから仕事が終わりをつけた。そして社長と二人きり。

機嫌をとってきた。そうこのとき最後にしていたらよかったと、あとでおもつ。男はそう簡単

にかわらない。その日だけ機嫌をとってきた。

明日からまた挫折をあじあつこととなる。

その日はいつもと同じように過ごした。でもいつもとどこか違う。

そうもつほんとはお互いすれ違っていたからだ。好きなはずの仕事のはずの話も、私は頭には

いらなかった。逆にうざかった。頼んで仕事に復帰したはずなのに・・・私の頭の中で拒否

が昼間の事件で始まっていたのだ。社長もどこかしらかわっているとおもっていた。だ

がもう私達は首宣告うけたときから・・・終わっていた。

なんかさ暴力をうけてしまえばなんにもかもやる気がおきなくなる。

話はあるが、なぜわたしがシングルマザーになったのかといえは・・・じつはDVなのだ。

当時の旦那ときたら・・・。

その前になぜ結婚したかといえは。だれもが祝福してくれる結婚ではなかった。私は17歳、旦那

は18歳。私は高校生3年、卒業まじかにせまっていた。このとき私の両親は必死だっただろ

う。そう私はあまりよい子ではなかった。でも高校だけは卒業してほしい両親とあまりそんな

ことに執着してない私。衝突はさけられなかった。

遊んだ。そのときにあったのが旦那だった。私はバカだった。妊娠した。それも旦那の言葉を

信じて妊娠した。私は両親にはむかいたかっただけかもしれない．．．いまは、わかった自分が

いやになる。世間をしらないとはこんなにもこわいとはしななかった。でもいまはそのときで

きた子供の母だ。逃げるわけにはいけない。愛おしい。

このときの旦那の子供を2人さずかることとなる。

結婚して．．．初めはよかったのだ。しあわせとほんとおもっていた。でも、たびかさな

る旦那病気といろんなことがたびかさなりしあわせはそうながくは．．．。男というも

の．．．私の場合は、であった男はなにごとにも責任感が欠落していた。まあ私もあまいのだ

が．．．浮気に始まり暴力におわる。そんなこんなで7年間元旦那とは終止符を打つこととな

る。そんなのと旦那に養育費をもとめるだけ無駄だ。もちろん望んでのなかった。そんななか

であったのが5年付き合うこととなる人だった。この人とは生活にまけたのだ。元旦那とはちが

い凄くやきもち焼きだった。お水をしていた私は仕事もやめさせられた。つぎの仕事をみつけ

ても男がいるとわかればやめなければいけなかった。それでもよかった。彼は経済力と凄く頭

がよかった。子供のこともじつによかみてくれた。それなりのイベントもこなしてくれた。そ

んな当たり前のことも当然とおもってしまったみたい。馬鹿だな私。そんなところにてあって

しまったのが社長だった。刺激がほしかったわたしはその誘いにつてしまった。自分はでき

るとおもってしまった。それに同じ仕事とくれば、話もあうし苦しみも分かちあえた。この頃

のわたしは同じ苦しみを話せるのがたのしくなっていた。その点彼氏は・・・私のすることは

全部否定と少しいらだちがあつた。その為、どんどん仕事にのめりこんだ。そしておのずと社

長とも・・・男と女の関係に・・・なるのに時間はかからなかつた。そのときはよかった。

新鮮で・・・それに深入りするつもりはなかった。ただそのときだけ・・・だがずるずるい

ってしまった。

そして・・・しれんともいえよう事件がわたしをのがれなくする。

話は仕事のはなしに戻る事となる。社長と関係をもった。2日後・・・その事件はおこる。

その日はよく晴れた日だった。営業も私なりに満足し会社に戻ると・・・。

たくさんの方が会社を取り囲っていた。すぐに異常にきずいた。その中の一人が、私にいかず

いてきた。免許証の提示をもとめてきた。そう、警官だった。なにがおきたのか・・・。警

官がみるみるふえてきた。そして会社のスタッフのどんだんかえってきた。そしてみんな職務

質問。罪状はスタッフの中に最近問題になっている。不法投棄・・・そう責任はもちろん当人

もだが・・・会社も同罪。指示をしたことになるのだ。その日社長含め当人連行。また問題と

いづのはかさなるので・・・当社はありがたいことに移転がきまっていた。引越は2日

後・・・。

警察がきてから社長は連行された。会社は混乱した。会社の移転の準備はしないといけない

し・・・さてどうしようか・・・。とりあえず社長不在のままスタッフに移転の準備をすす

めないと・・・。社長が不在のままスタッフが手をかしてくれることになった。ありがたかつ

た。うれしかった。みんなまだ寒い時期に汗だくで作業をした。取締りがおわればすぐにあ

たらしい会社で仕事ができるように・・・。

一方、社長のほうはまるで警察で犯人扱い・・・どんどん衰退していく。ドンとしていた社

長のすがたはだんだん消えていく。少しずつやつれていく。わたしはそんな社長をほっておく

ことはできなかった。毎日一緒にいることとなった。

仕事のほうも立て直したいけないといけない。そう・・・今回の警察の捜査に対していろいろ

事件性がどんどん発生してきたからだ。社会的には他同業と一緒にシステムだったのでまった

くといつていいほど、法にはふれていないとおもっていたから・・・見直すところがたた出て

きた。その一つ一つを検討していき、このグレーだった職場をクリーンにしていかなければな

らなかった。そうまったく無知だった。人間の認識というのはぜんぜん違うのだとこのときほ

ど痛感したことはなかった。まずは警察に質問してみた。

まったく分からないという回答だった。だったらなぜ取り調べがはいったかという・・・ま

あ結局個人がおこしたことが会社にふりかかりこの業界はじめての取締りがはいった。だから

だれもしらないことだらけ・・・でも知らないではこれからは許されない。もし今度同じ

ことで取締りが入れば・・・アウトだ。だから念入りに調べる必要性があった。市役所から弁

護士、この業界に必要な許可、そして免許。

そんな感じで一月がたとごととしていた。時間が立つのはこんなに早いのかと思った。

一方・・・わたし個人の私生活といえば・・・。

社長と男と女の仲にずるずるなっていた。先文にも書いたように初めはよかった。でも私のな

かでは煮え切らないものがあつた。そう5年間一緒にいた彼のことだ。今おもえば私のすること

のバランスをとってくれてたのは彼だ。いろんなトラブルに巻き込まれないように見守ってく

れていた。彼のいうことを聞いていれば今回の会社の事件も着込まれることもなかっただろ

う・・・きずいたときには彼は遠くに離れていた。というかはなしてしまったのは、ほかの

だれでもない私だ。日に日に彼への気持ちはつのっていった。どうしたらいいのかな・・・。

片思いがこんなに切ないなんて・・・思つてもいなかった。でも、そんなこといっても、一度

うしなつた信用というのはそう簡単にはもどれない。しかし心と裏

腹な行動をしてしま

う・・・彼が嫌いな仕事に没頭してしまう。だって仕事をしなければ生活だって、子供たちだ

ってまもれない。しかし今の私には挫折感そして仕事の威力さえもない。だれにもたよれない

い。もしも彼がいてくれたら・・・アドバイスは的確にさとしてくれたらろう。

でも、彼をきずつけてしまった。今だから思う。ごめんなさい。そしてこの世に本当に運命な

んてものがあるなら、私はあなたに命をささげてもいい。

そんなことを思うときそとはいつも雨・・・いいよなあ空はいつだって泣ける。私には泣く余

地も後悔する時間もなかった。負けをみとめたくなかった。でも一人になつておもいだすの

は、うしなってしまった・・・君。遠くからでもいい私、あなたのその深く傷つけてしまった

君の心を償いたい。こんなにあきらめが悪くてごめんなさい。一生君をわすれない。

また、気がむいたら連絡してな。

私生活はこのまま中途半端のままだ。社長とはどんどん深くなっていく。私の心は・・・どこ

にあるのか？

そんなこんなで日々は無惨にも過ぎていく。会社のほうもなんとか形になってきた。

有り難いことに捜査がはいつたことで、わたしそしてメンバーすべてが、いままでしてきたこ

とは、違法だとしり、そしてなぜ違法なのかわかった。

この業界に震撼した。なかには、すでに個々がしていることを違法だとしていた者もいた。

ここから先は・・・・・・当社は違法をしないということだ。

今回の捜査の情報は十分なぐらい世間に知れ渡った。そして捜査が終盤にさしかかった頃、わ

が社の事件は新聞に掲載された・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0996e/>

今の気持ち

2011年2月2日15時01分発行